

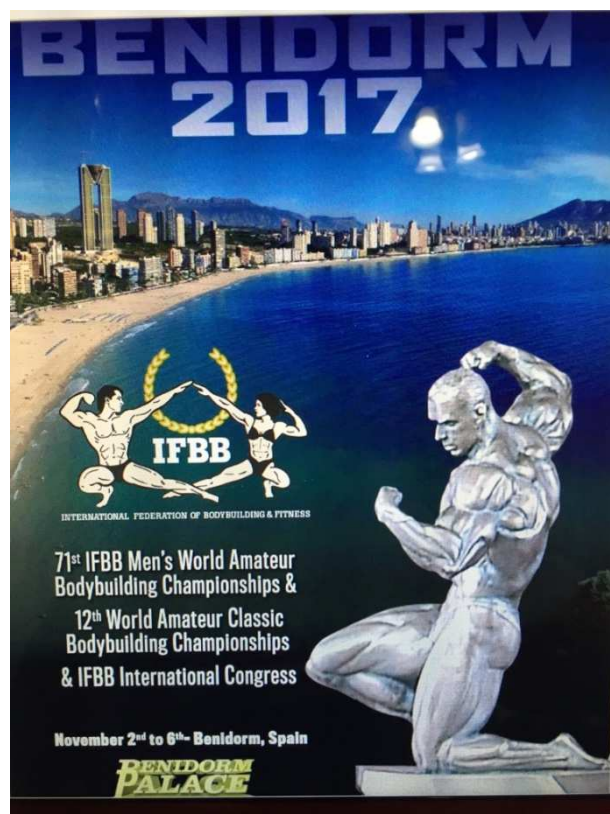
# 2017世界男子ボディビル・男子フィジーク 監督レポート

監督 涌島剛智三  
2017年12月23日

## プロローグ

11月2日～5日までスペイン・ベニドルム市で世界アマチュアボディビル選手権、世界アマチュアクラシックボディビル選手権、世界アマチュアメンズフィジーク選手権大会が開催された。

今年からメンズフィジークも加わり、参加国55カ国、参加選手314名と、最大級の世界大会となった。今年で3年連続、同じ会場での開催だ。会場となるベニドルム市は地中海に面したスペイン随一のリゾート都市で人口6万6千人。



11月1日（水）

## 最強の日本選手団

団長のJBBF藤原会長、涌島監督、木下コーチ兼通訳の役員3名、選手13名、報道からはトレーニングマガジン社の森永氏を含めた17名のチームJAPANの一行を乗せたKLMオランダ航空機は11時30分、成田国際空港を離陸しアムステルダム経由でスペイン・アリカンテ国際空港に15時間掛かって到着した。



一行を乗せたバスは空港を出発してから1時間程で目的地ベニドルム市の宿泊ホテルに到着。長時間のフライトと時差で心身共に疲弊した選手団は部屋割りした各部屋に分かれ就寝する。私は昨年プレイングマネージャーだった田代誠選手と同部屋になる。久々の長旅で疲れた私は田代選手とは挨拶もそこそこに済ませ、床に就く。

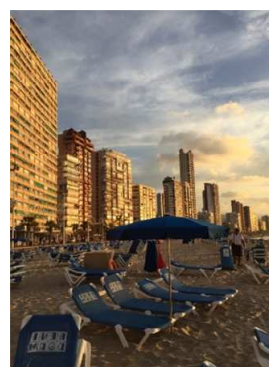
11月2日（木）

## 束の間の時間

選手達は束の間の休日となり各自自由時間となる。藤原団長・木下コーチ・報道の森永さんと私の4名は午前中、ホテル DeloixAquaCenter にて I F B B

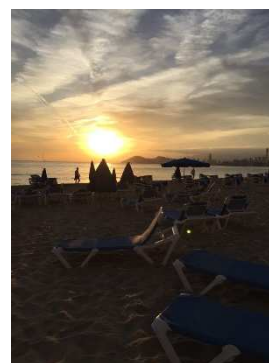
大会登録の受付を済ませる。

午後からは役員も自由時間となり、私はベニドルム市内を散策する。ホテルから徒歩10分ぐらいのベニドルムビーチへ行ってみる。



ビーチに一人立っているとスペインの陽気な音楽が流れ、水辺では海水浴を楽しんでいる子供たちや、地中海の水面は夕日がキラキラと反射して、ここだけは時間が止まっているようだ。何となくワイキキビーチとオーバーラップしてしまう。

ビーチから眺める地中海に感動しつつも明後日から始まる大会への思いが強くなる。監督としてどのようにサポートしていこうか・・・

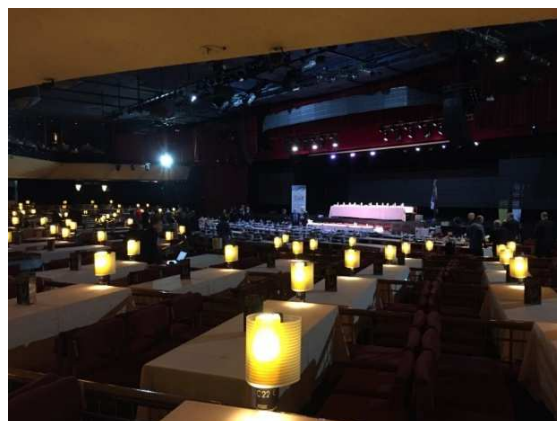


11月3日（金）

## 7時間に及ぶ総会



朝食を早く済ませ。8時半から始まるIFBB総会に藤原団長はじめ役員3名で出席する。大会会場でもあるベニドルムパレスは宿泊ホテルからほど近い場所で場内はそれほど広くないステージとボックス席がたくさん並び、キャバレーの様だ。



我々が会場入りしても準備中で時間通り始まる様子はなく、結局始まったのが一時間後でIFBB会長のサントンファ氏の司会進行により七時間にも及ぶ総会は終了した。IFBBも色々な場面で問題に直面しているように感じた。





午後 4 時からホテル DeloixAquaCenter にて選手登録、検量、計測が行われた。その後 7 時からジャッジミーティングが始まり明日からの審査についての注意事項がパウエル委員長より述べられ、特にドーピングに関する説明には語気を強め違反者には厳しく対処するとのことでミーティングは終了した。

11 月 4 日 (土)

## ボディビル競技とアクシデント

本日から 2 日間にわたりボディビル競技とメンズフィジーク競技が始まる。今日一日で日本チームのボディビル選手は全員出場する。昨年度 80 kg 級で優勝した鈴木雅選手の連覇は成るか？田代、須山選手は昨年を上回ることができるのか？初出場となる木村、浅野、佐藤選手はどこまで順位を上げるか？今回は否応なしに期待が高まる。



さて、トップバッターはメンズフィジーク 168 cm以下級に出場する渡部工兵選手。日本クラシック選手権で初めて渡部選手を拝見したがバランス良く細部にわたって筋肉がついており、アウトラインもいい。結果は世界大会初出場ながら 4 位入賞と健闘をみせた。

ボディビル 65 kg級にはベテラン浅野喜久男選手と今年度ジャパンオープン優勝、日本選手権 7 位の木村征一郎選手が出場。日本では常に安定した入賞をしている浅野選手と全身にわたりまるまる密度の高い筋肉をまとっている木村選手だったが、2 人ともセカンドコールで呼ばれてしまった。決勝進出は厳しいか？やはり結果はファイナルに残れず木村選手は 7 位、浅野選手は 8 位だった。

70 kg級には昨年 4 位の田代誠選手と佐藤貴規選手が出場。世界選手権初出場の佐藤選手は今大会をもって引退するとのことで気迫あるポージングインパクトを与えてようだ。一方、昨年 4 位の田代選手は日本選手権と同じコンディションで隙のないパーフェクトボディではあったが、韓国、中東の選手のインパクトが強くて目立たない。セカンドコールに佐藤選手。サードコールに田代選手が呼ばれた。

結果は佐藤選手 7 位、田代選手は昨年より順位を下げて 11 位となった。

75 kg級は須山翔太郎選手が昨年 3 位からどこまで順位を上げるかワクワクする。参加人数 21 名は全カテゴリーの中で最も多い。昨年と同じ 3 位でも凄いことではないか。セミファイナルに残る審査が始まった。もちろん 16 名には残った。須山選手はいつもと変わらない。しかし他国の選手も良い。特に韓国、中東の選手の迫力といったら非の打ちどころがない。須山選手はファーストコールに呼ばれずセカンドコールで呼ばれた。やはり順位が振るわず 10 位に終わってしまった。

ここまでクラシックの渡部選手を除いて誰も決勝進出をしていない。淋しい限りだが最後の取り、鈴木雅選手に頑張ってもらおうしかない。

鈴木選手がステージに出てきた。日本選手権と同じように見えたが何か元気がない。押し迫る感じが弱い。やはり今年はケガで思うようなトレーニングが出来なかったのが要因だろうか。逆に隣の韓国のキム選手（昨年2位）の胸筋の厚み、大腿筋のデカさとカット、上腕も太い。アウトラインはいいとは思わないがそれを打ち消す程の迫力を醸し出している。キム選手に負けるかと思ったのは私だけではないだろう。ファイナルへの比較審査が始まる。鈴木選手も無難に残る。もちろん韓国の二人の選手も入っている。決勝フリーポーズが始まり、最初に鈴木選手の出番。鈴木選手はフリーポーズに定評があり、誰もが認めるところだ。フリーポーズ如何では順位を上げそう。鈴木選手がステージ中央でポーズをとってBGMを待っている。ところがここで思わぬハプニングが起きた。BGMがスタートしたところで鈴木選手が違くと手でスタッフにジェスチャーを送っている。どうやらCDのBGMが途中からスタートしているらしい。日本選手権の時と同じCDで途中から音楽が変わるような構成になっており、その変わるころからBGMが流れる。何度やっても同じところからかかるのでそのまま十数秒フリーポーズをとっただけで終わってしまった。さぞかし悔しい気持ちだろう。日本選手団も同じ気持ちだ。もう一度やらせてほしいと抗議したが受け入れてもらえず、何ともやりきれない虚無感だけが残った。

CDデッキが古いのか、調子が悪いのかわからないが、ダビング構成は凝らないほうが賢明だろう。他国の数名の選手も同じようなこととなり、主催者で用意したBGMが掛かっていた。外国は本当に何が起きるかわからない。結局、優勝は韓国のキム選手・2位イランの選手・3位に韓国のパク選手が入り、昨年、優勝の鈴木選手は4位に甘んじた。



11月5日（日）

## フィジーク競技と惜敗



昨日のチーム J A P A N ボディビルダーの結果に悔しがっていた藤原会長。もちろん、選手は十二分に調整して当日を迎え、努力した結果の順位なので仕方ない。今日はメンズフィジークの面々に結果を残してほしい思いだ。心なしか、皆、昨日の雪辱に燃え、気持ちが入っている様にも見える。

170 cm以下級には田村宜丈、湯浅幸大、寺島遼の 3 選手が出場する。日本のトップクラスが出場するので期待大だ。田村、湯浅選手は国際大会には慣れているようで堂々としている。ファーストコールに湯浅、寺島選手が呼ばれ、セカンドコールには田村選手が呼ばれた。結果は寺島選手が 4 位。湯浅選手が 5 位となる。田村選手は残念ながら 7 位でファイナルに残れず。

173 cm以下級は日本の絶対的王者、佐藤正悟選手が出場。佐藤選手も国際大会には何度も出ており、余裕すら感じられる。佐藤選手の最大のライバル、中国のチェン選手も出ており、この二人が優勝を争うことになりそうだ。チェン選手は顔が小さく、張り出した肩が特徴だ。佐藤選手も負けていない。案の定、セミファイナルでは佐藤選手が勝っていた。決勝では惜しくも負けたが、ここ、3年間で最も肉薄していた。過去二度、チェン選手に負けている佐藤選手は今回、集大成で挑んだという。悔し涙から心情が伝わってくる。この悔し涙は来年、嬉し涙に変わるはずだ。来年に期待したい。

176 cm級には愛知から参加のムードメーカー甲村隆一郎選手が出場。初めての国際大会だが、物怖じせず自身に満ち溢れている。堂々の 4 位入賞だ。

メンズフィジーク最後は 179 cm級出場の小泉憲治選手。高身長にバランスよ

く筋肉がついて、ルックスもいい。しかし、ファーストコールには呼ばれず、セカンドコールで呼ばれてしまい残念ながら9位で終わってしまった。

夜にはお疲れさん会と反省会を兼ねて、ベニドルム市街のスペイン料理レストランで食事会を行う。鈴木選手は残念ながら体調不良で欠席。



11月6日（月）

## 最後のスペイン



今日はスペイン最後の日だ。日本選手団はこの1週間にいろんな想いを持ちながら、帰国の途に就く。

午後1時、ホテルに来た迎えのバスでアリカンテ国際空港に向かう。選手団は搭乗手続きを無事済ませ、アムステルダム行きの飛行機でオランダを経由した後、フランス、パリへ。パリから成田まで往路と同じ12時間のフライト。

日付が変わって11月7日、羽田国際空港で解散式を行い、それぞれ帰路についた。



# エピローグ



Photo: Igor KOPCEK, EastLabs Team



今回、初めて日本連盟から監督という職務を任せられ、自分が真っ当に責務を果たすことが出来るか不安だったが、同行した藤原会長はじめ木下コーチにいろいろと助言をしてもらい助けていただいた。

初めて、国際大会の審査も行い、緊張の中にも貴重な体験をさせてもらった。また、日本のトップクラスの選手とも一週間、同行させていただいた経験は、私の一生の宝でもあり誇りだ。

大会を振り返って、各カテゴリー共、各国の選手層のレベルの高さに驚いた。

昨年の活躍した日本選手達が思うような結果を残せなかったことに悔しさ反面、世界の壁の厚さを目の当たりにした。

今回、感じたことは筋肉量とバランスはもちろんだが、選手から発するインパクトが大事だと思った。インパクトとは圧倒的な胸筋の厚み、肩の張り出し、深いシックスパックにカットとバルクを備えた脚だろう。そして強いアピールとカラーリングも大事だと思った。短い審査時間の中ではインパクトが弱いと印象が薄くなる。

終わってみれば韓国勢の活躍が目立った大会だった。国家レベルの戦いで挑んできた韓国選手の活躍に日本も負けてはいられない。

来年度はスペインの南地方、地中海に面したマルベージャ市で11月9日～11日に開催する。

## 出場選手結果

木村 征一郎	(大阪)	男子ボディビル65kg以下級	7位
浅野 喜久雄	(愛知)	男子ボディビル65kg以下級	8位
佐藤 貴規	(東京)	男子ボディビル70kg以下級	7位
田代 誠	(東京)	男子ボディビル70kg以下級	11位
須山 翔太朗	(東京)	男子ボディビル75kg以下級	10位
鈴木 雅	(東京)	男子ボディビル80kg以下級	4位
渡部 工兵	(東京)	男子クラシックボディビル168cm以下級	4位
寺島 遼	(東京)	男子フィジーク170cm以下級	4位
湯浅 幸大	(東京)	男子フィジーク170cm以下級	5位
田村 宣丈	(東京)	男子フィジーク170cm以下級	7位
佐藤 正悟	(大阪)	男子フィジーク173cm以下級	2位
甲村 隆一郎	(愛知)	男子フィジーク176cm以下級	4位
小泉 憲治	(神奈川)	男子フィジーク179cm以下級	9位

団長 藤原 達也 JBBF会長

監督 涌島 剛智三 北海道連盟理事長

コーチ兼通訳 木下 美弥子 福岡県連盟理事・JBBF集計委員